
針灸師

クレーン ケン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

針灸師

【Zコード】

N7179M

【作者名】

クレーン ケン

【あらすじ】

針灸師の元へ青い顔をした患者が現れた。
それは随分と見ない患者だった。

今日も客が一人も来なかつたな、と針灸師がつぶやきながら店じまいを考えていると、診療所のドアが開き随分と見かけない客が現れた。

その客の顔は元々が青い顔をしてゐるのだが、今田は更に顔色が悪いよつだつた。

「おやおやお客さん、随分と久しぶりじゃの？」「うしたね？随分顔色が優れぬよ？」
「

「ええ、最近なんだか調子が良くないんですよ。なんだか体がとてもだるいし、あちこち吹き出物が出て体中が痒いんですよ」

「ふ～む。やうか、そーか。それでは見てみよつかの。そこに横になんなされ」

と針灸師は診療台を指差し客に言つた。

客が診療台の上で横になると針灸師は客の体に手をあて皿をつぶつた。

「先生、いつたい何をやつてこるんですか？」

「ツボを覗てこるのじゃ」

「ツボですか？」

「前にも説明したとおもつのじゃが、キリの体には無数のツボがあ

「何か分かりましたか？」

「ウム分かった」

「何か悪い病気ですか？先生」

「厳密には病とは言えぬのだが、一種のアレルギーのよじや」

「でも先生、今まで私はアレルギーなんか無かつたのですが

「やつじやの。確かに君は100年前までは健康そのものじやった。しかしここ数十年君の体の免疫力は低下しておるよ」

「そりゃ先生、年つて事ですか？」

「いやいや何を言つかね。君はまだ若い。君はまだあと数十億年も生きるはずじやよ」

「先生、こいつ何のアレルギーなんですか？」

「君の体の表面には無数の小さな生き物が生息しておるのだが、それは知つておるかね？」

「はい、それは知つていますが、以前先生はそれらの生き物は何も害が無いって言つていましたよね？」

「確かにそういうのじやが、どうもそのうちの一種にアレルギーを起こしてくるよ」

「確かにそういうのじやが、どうもそのうちの一種にアレルギーを起

「どの種ですか？」

「人類といふ生き物じゃ」

「ああ、ああ、人類ですか。確かに数万年前から急激に増え始めた生き物ですよね？やつぱりそうでしたか！」

「やつぱり、といふと？」

「なんだかそつじやないか、と思つていました！人類が現れてから体の表面がズキズキと痛んだり、元々湿気があつたはずの所が乾燥したりするんですよ！」

「東洋医学ではそのズキズキは『戦争』と言い、乾燥した肌は『砂漠化』と言つのじや」

「『戦争』？『砂漠化』？なんだか聞き慣れない言葉ですね」

「『戦争』とは同じ種同士の殺し合ひの事を言つのじや。そして『砂漠化』とは他の種を殺す事を言つ」

「なんですか？！そりや先生ばい菌つて事でしょう？なんとかしてくださいよ。今だつたら抗生物質とかでばい菌を殺す事もできるんでしょ？」

「うへん、他の医者ならばいのじやうが、ワシはその種を殺す事には反対じゃ」

「どうしてですか？先生は訳が分かりません……もういいです……」

他の医者に相談します！！」

「まあまあいいから最後まで聞きなさい」

「また東洋医学での講釈ですか？もひ聞き飽きましたよ、それは「君には信じられないかもしけんが、その種は君を守つておるのじやよ」

「守つている？そんな馬鹿な！見て下さい私の顔を…私は100年前まではもつと美しかつた！人類が私を病氣にしているのです！！」

「その『美しい』という概念を創つたのは人類なのじやよ」

「なんですか？」

「思い出してみたまえ。君には数万年前『美しい』という概念が無かつたはずじや。それだけではないぞ。君は2000年前には自分が丸いという事も知らなかつたはずじや。それを発見したのは人類なのじや」

「…………」

「確かに人類は毒素を出し君を汚染してあるじやうつ。しかしそれは君という存在を知り尽くし君という存在を守る為に活動しておるのじや」

「なんだか今の状態を考えると、とてももうは思えませんけどね」

「人類もまだそれを自覚しておらんからな。

さつきワシがツボを覗ておつたじやろ？ツボとは人類が収集した君の情報を集め保管するセンターなのじやよ。

人類もそれを何の為に集めているのかはつきりとは自覚しておらぬ

「先生の話は難しそぎて、なんだか分かりませんよ」

「まあまあいいから、ここは重要だから、最後まで聞きなさい。

ツボは君の表面の至る所にあるのじや。

それらはどれも重要な役割を果たしておる。

東洋医学的にはそれらのツボは『ニューヨーク』『パリ』『ロンドン』『東京』などと呼ばれまだ他にも無数のツボがあるのじや。それらのツボは君の健康状態を管理する為の無数の知恵を蓄えておる。

ワシもこれらツボの助けなくして君の健康状態を知る事は出来ぬ

「先生はばい菌の味方だったのですか？！」

「いいかげん、そのばい菌という概念を改めなされ。

人類は君の敵ではない。君の存在を美しいという事を知っている唯一の種なのじや」

「なんだか信じられないんですけどね・・・」

「無理もない。

今まで人類はツボに蓄えた知恵をめぐり争つておつたのじやからな

「『戦争』つてヤツの事ですね」

「さよひ。東洋医学的には『戦争』とはツボに蓄えた知恵をめぐる『権力闘争』によつて起つる争いなのじや。」

本来ならばツボ同士は情報交換を行い君の体調管理をしなければならなかつたのじやが、ツボ（東洋医学的には『都市』とも呼ばれる）がそれぞれ自分がエライと主張し、他のツボを攻撃してしまつたのじやよ」

「あまり頭の良い種とは言えませんね」

「確かにの。しかし今それらのツボを診断してみたら『氣』の流れの変化が見えた」

「『氣』の流れですか？」

「権力闘争の時代が終わろうとしておるのじや。ツボはそれぞれが独自のネットワークを広げ他の無数にあるツボと繋がりを持ち始めておる。」

そのネットワークは無数あるツボを繋げひとつにしておる

「やうすると、どうなるんですか？」

「地球が丸い、という事を知るのじや」

「『地球』とは人類が私に付けた名前ですね？」

「さよひ。『権力闘争』は地球が丸いという事実を拒絶する事によつて起つるのじや。君の病の原因はこの権力闘争なのじや。」

西欧医学ではこれを『アレルゲン』と言ひ。

人類が地球は丸いという事実を知つた時、このアレルゲンは消滅し
君は癒されるであろう

「癒されるのにどれぐらい時間がかかるのでしょうか？」

「もつじきじや。数十年、もしかしたら数百年かもしけぬが、君は
確実に癒される」

「…………そうですか。そうすには治らないのですね」

「何を言つておるのかね？君はまだまだ若い。君にとつて数十年数
百年なんてたいした時間じやないだろ？」

「そうですね！ありがとうございます。なんだか少し楽になつたよ
うな気がしますよ」

「ウム、少しでも助けになつてワシも嬉しい。

・・・・最後に君にお願いをしておきたい事がある。

どうか人類を大切にしてほしい。君にとつて人類がとても面倒な存
在に思える事もあるう。

しかしいすれば人類は君を守り助けるじやろ？

だから、人類にふんだんに恵みを与えてやるがよい。

大地の恵みを与え、空気や水の恵みを与えなさい。

そうすれば、いすれば彼らも自分達が地球の一部である事を知るで
あるう。

地球の素晴らしさを知つた人類はいつかは地球を飛び出し他の天体
に君の美しさを自慢するに違ひない。

その時に君は人類のありがたさを知るじやろ？

だから、人類を愛してあげてほしい

」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7179m/>

針灸師

2010年10月15日22時14分発行